

午後 2時10分 再開

○議長（石川交三君） 再開いたします。

8番畑澤洋子議員の発言を許します。8番畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） 8番、公明党、畑澤洋子です。

「平和ほど尊いものはない。平和ほど幸福なものはない。そして平和こそ人類の進むべき根本の第一歩であらねばならない」とは、私の師匠の有名な言葉です。世界的に感染症と闘っているこのさなかに、他国を軍事力で攻め入る国があろうとは、晴天の霹靂とはこのことです。現実映像で見せつけられるとは夢にも思いませんでした。地球の環境が悪化の一途をたどっているこの時に、世界が団結するのではなく、殺戮で攻め込む野心を実行する国のトップがいる、そう耳を疑っているところです。私たちには、もう1日も早い平和的解決を願って行動していく、それしかないのでしょうか。今回様々考えさせられております。

今日は、議員になりまして40回目の一般質問に入ります。どうかよろしく願いいたします。

はじめに、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種事業についてお伺いします。

2月1日発表の全国の3回目接種者数は、秋田県内においては、対象者14万人のうち接種したのは18.9%で、全国47都道府県中、最下位でした。現在主流のオミクロン株、BA.1は、これまでの流行株に比べて、より短い潜伏期間で2.6日から2.9日と報告されています。感染してから症状が出るまで2日半で高熱などの症状が出てくるということです。ワクチンの3回目接種を終えた場合は、感染確率は低く、重症化率も低いと報道されているので、家庭内で感染者が出た場合を考えると、早めの3回目接種を望む人はたくさんいます。高齢者優先は理解できますが、若い年代も子供も大事なので、順番を待つにも長いと感じている方もたくさんいらっしゃいます。老若男女問わず、皆、自分は感染したくないと心配していることです。今回の質問は、その心配している皆様を代表してお伺いします。

はじめに、今後の予定では7月下旬にワクチン接種事業は完了する予定ですが、1日も早く接種できる前倒しのワクチン事業を望む声も出ています。が、課題は医師不足が根本的な原因ではないのかと推察しています。足りない医師を広域で1カ所に絞り、3回目接種者の送迎を万全にすることで、井川、八郎潟、五城目町の早期接種と対象者全員が完了が可能になると思いますが、町の考えをお伺いします。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） 8番畑澤議員のご質問にお答えいたします。

感染拡大防止のために前倒しで接種を加速させたいところではありますが、3町合同で実施できる駐車場や冷暖房設備を備えた大規模接種会場は、近隣町村にはない状況でありまして、また、医師会の方針で、近隣3町は平日をメインに実施することになっているために、執務可能な医師の人数と接種時間が限られていること、それに伴い、1日に接種できる人数にも限りがあることから、現実には困難な状況にあると考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） これまでに長い時間をかけて綿密に組み上げてきたこの計画ですので、7月完了まで何事もなく、最短、できるだけ最短距離で終了することができますようによろしくお願いいたします。

まあこれもしょうがないことですがけれども、秋田市のほうでやられているところもおそらくこちらの私たちも、注射に行けるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。大規模接種会場の件です、秋田市の。

○議長（石川交三君） 猿田健康福祉課長

○健康福祉課長（猿田広秋君） 畑澤議員にお答えいたします。

県の事業でやってるんですけども、県のほうでも接種日を2日ほど増やして対応にあたっております。

以上です。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） そうすれば5日ほど増やしているということで、五城目町からも行けるよう、行けるということなのですね。はい、ありがとうございました。

自宅療養者や濃厚接触者になった場合、自宅待機になることもあります。そうすると、最低でも1週間は外に出られません。その間の食料補給、必要物品などを、コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、電話での申し込みを受けて玄関先に食料と日用品を置き配する行政も出てきました。その例が大阪の熊取町で、1週間分の食料と日用品を一家に1セット、玄関先に無料で配付しているそうです。必要上、仕方なく外出する自宅待機者が不自由しないように、当町でも配慮できないかお願いいたします。

す。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。

自宅療養者への食品などの配付につきましては、県が無償で事業を実施しております。発症日から10日間分程度を配付しておりまして、保健所が対応しております。自宅療養につきましては、親戚や知人の協力を得られない方が対象となりますが、様々なケースがありますので、ご相談次第ということであります。

これとは別に、県では、令和4年1月以降に新型コロナウイルス感染症に罹患された方のうち、秋田県内に居住実態があり、保健所から自宅療養を認められた方に、1人当たり3万円の給付金を支給しております。

今後、町といたしましては、感染状況を踏まえて、必要な施策につきましては検討してまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） 当町でもできるだけ何か対策をやったほうが、私は町民の皆様にとってはありがたいことだと思いますので、よろしく願いいたします。

子供たちへの5歳から11歳以下のワクチン接種事業に関して伺います。

厚労省は、予防接種法に基づく接種の努力義務は保護者に課すことなく、引き続き議論、同調圧力を生じさせないよう、学校での集団接種は推奨していません。2月26日から一部自治体で始まっている小児接種は、全国的には3月以降に本格化する見通しだそうです。ワクチンはアメリカファイザー社製を使用し、自治体判断で基礎疾患があるなど重症化リスクの高い子供が優先されるようです。接種の有効成分量は12歳以上の量の3分の1量を、12歳以上と同様に3週間間隔で2回投与する予定と報道されています。

当町ではどのような接種事業の概要を決めているか、お知らせ願います。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答え申し上げます。

5歳から11歳の新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、3月23日より湖東厚生病院で、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村の4カ町村で合同で実施してまいります。

3月までに国から供給される小児用ワクチンが対象者の2割分であるため、まずは年齢の高い順から接種を進めていき、ワクチンの供給状況を見ながら順次対象者を広げてまいります。今回は小学校3年生から5年生148名を対象に、3月3日に接種券を発送しております。

以上ですね。

あとは、通告には相談とか不安解消の設置ということではありますが、答弁してよろしいでしょうか。

○8番（畑澤洋子君）　そうです。お願いします。

○町長（渡邊彦兵衛君）　はい。それでは、予防接種法の努力義務規定は適用されないことから、接種の拒否は可能でありまして、また、保護者の不安解消、相談対応といたしましては、国の情報提供の資料の配付と相談者への丁寧な対応に努めまして、また、3月上旬に新しく設置される予定の秋田県新型コロナウイルスワクチン小児接種専用相談センターへの紹介など、保護者のその不安解消に努めてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（石川交三君）　畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君）　申し訳ありませんでした。子供のワクチンの場合は保護者の不安が一番大きいところなので、結構そういう心配事を相談する方が多く出るのではないかと思います。町でも窓口の設置をということで、申し訳ありません、言い忘れまして。

先ほどの答弁ですが、町のほうにかけた場合、県のほうの相談窓口を紹介するって、こう受け止めてよろしいですね。

○議長（石川交三君）　猿田健康福祉課長

○健康福祉課長（猿田広秋君）　相談にはいろいろな専門知識がいるために、県のほうで今日からなんですけども、新型コロナワクチン小児接種専用相談センターというのを今日から開設しております。町としては、その専門的な知識が必要なため、そちらのほうをご紹介いたして、します。

○議長（石川交三君）　畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君）　それでは、私たち議員も結構そのような相談の電話をいただきますので、議員の皆さんにはその相談、県の相談センターの電話番号と、新しい情報がありましたらプリントして出してください。よろしくお願いします。

次に、雀館公園の整備で快適な賑わいをということで考えさせていただきました。

雀館運動公園は、小学校完成により道路の街路樹等整備され、見た目からも賑わいのある雰囲気伝わってきます。最近、ウォーキングやランニングなどをする高齢者の皆さんもたくさん増えてきて、雪解けが待ち遠しく思っております。そして、公園を訪れる健常者のみならず、多少の障害のある人でも公園の頂上目指し登っていただける優しい配慮とかが必要ではないかなというふうに歩いてみて考えました。そして、障害者の皆様の一番大事な障害者用トイレの設置というものも、まああれば大変ありがたいことだと思えます。そして、公園散策道を舗装しまして、でこぼこの改修をした上で、そのような整備をしてから雀館公園の賑わいをさらに盛り上げていただけないでしょうか。よろしく願いいたします。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。畑澤教育長

○教育長（畑澤政信君） 8番畑澤議員にお答えいたします。

歴史ある雀館公園周辺は、教育、文化、そしてスポーツといったそれぞれのコミュニケーションの場として多くの方々から利用されております。昨年度改築した五城目小学校や地域図書室「わーくる」の開設も含め、かつての賑わいを取り戻しつつあると施政説明でもご報告させていただきました。また、令和4年度の事業として、懸案でありました日本庭園の整備や多目的グラウンドの一部改修など、より町民に親しみをもってもらい、さらなる憩いの場を目指しているところであります。

雀館公園をはじめとするエリア全体をより利活用していただくため、ご指摘のありました障害者用トイレの設置と散策道の改修についてであります。今後、関係団体からご意見を伺いながら、バリアフリー対策を講じてまいります。教育委員会としては、引き続き公園としての景観をはじめ、まずは維持管理に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） よろしく申し上げます。

次に、令和元年の9月定例会において一度提案したことがありますが、帯状疱疹予防接種に助成金をとということで再度また出させていただきました。

まだ認知度が低い予防接種なので、特にその当時は反響もありませんでしたが、テレビコマーシャルで紹介されるようになり、「高いの」と聞かれるようになりました。家族が帯状疱疹になって大変だったことで、自分もこんなに痛むのかと心配になったとの

こと。帯状疱疹は発症前の痛みの原因がなかなか分からないため、はじめは整形外科に受診し、特に異常がないことで湿布と痛み止めが処方されることになり、やがて湿布にかぶれたかと思いきや、水泡の2個続き発疹が出て、はじめて診断がつきます。そして治癒した後は後遺症のように神経痛が長く残るといふ、やっかいな病気です。原因は、誰かから感染するものでもなく、自身の体に残る水ぼうそうウイルスの再活性化による発病です。誰かに感染させるとすれば、水ぼうそうになったことのない人に、帯状疱疹としてではなく水ぼうそうとして感染させる可能性があります。

県内でも帯状疱疹に助成する自治体が出てきました。経験した人でなければ分からない激痛で、診断がつくまでにたくさんの医療機関を回る人もたくさんいます。ぜひ当町でも検討していただきたいと思います。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

帯状疱疹は、50代から発症率が高くなりまして、70代でピークに達し、80歳までに約3人に1人が発症すると言われております。現在、帯状疱疹を予防するワクチンとして承認されているものは2種類ありまして、対象者は50歳以上であります。ワクチン接種を行うことによりまして、病気に対しての免疫力が高められ、発症の抑制や、また重症化の予防につながることから、予防接種の意義は大きいと認識しております。

しかしながら、帯状疱疹ワクチンは国が接種を推奨している予防接種法に基づく定期接種とは異なる任意接種でありまして、一定の効果はあるものの、50歳以上を対象とした国内臨床試験では、ワクチン接種後6週間から8週間までの副反応の発現割合は50.6%であると報告されております。

現在、国では、ワクチンの効果と影響を分析しながら、定期接種化に向けて検討しているところでありまして、今後の国の動向を注視してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） この予防注射をぜひ進めてくださいと私たちにお願ひしたのは、能代市の開業医のドクターからでした。自分になって初めて患者さんの痛みが分かった、そういう経験をもとに提案しております。国の動向を見るまでもなく、もうぜひ五城目町が南秋田郡きって助成を出していただければありがたいと思います。今後考えていただけますよう、よろしくお願ひします。

次に、フレイル予防に歯科検診ということで提案させていただきます。

数年前より「フレイル」という言葉が聞かれるようになりました。フレイルとは、私が病院に勤めていた現役の頃はない言葉でしたけれども、検索しますと、加齢により心身が衰えた状態で、生活の質を落とすだけでなく、様々な合併症を引き起こす危険がある状態というもので、高齢者が生活の質を落とさず、健康寿命を引き延ばすために、秋田市が主催していますLL大学、ロングライフ大学に入学してみました。月一の6カ月間、高齢者のためになるお話は、笑える講義、無理矢理笑う講義、死亡後に問題になる財産の取り扱い、フレイル予防には食生活と口腔ケア、そして認知症サポーターの養成講座など多彩な内容で、大変勉強になりました。

講義の中でよく聞く「フレイル」という言葉、このフレイルを回避するには口腔ケアが大事で、自分での歯磨きには限界があること、そして虫歯や歯槽膿漏を予防し健康を保つためには、定期的な歯科検診が必要ということでした。

以前から8020という数字を聞いたことがありますが、特に意味は分かりませんでした。今回この勉強会で、80歳で20本の歯がある状態という内容で、まあびっくりしましたけれども、そのきっかけをつくるために県内の大方の自治体では歯科検診を10年刻みで実施しています。そして75歳以上になると5年刻みになり、料金の一部あるいは全額を行政で負担していました。南秋田郡内では当町だけが実施していません。不具合がなくても定期的に歯医者でアドバイスをしてもらおうと、歯を大事にする気持ちが出てきます。そのような気持ちに至るまでのきっかけとして歯科検診の受診券が10年に1回届いたら、大方の人は受診します。そして歯科医のアドバイスに従い、頑張っけて口腔ケアをし、健康寿命を延ばそうと頑張ることでしょう。ぜひ当町でも検診に歯科検診も含めていただけないでしょうか。

○議長（石川交三君） 執行部の答弁を求めます。渡邊町長

○町長（渡邊彦兵衛君） お答えいたします。

現在、町の歯科検診は、国の交付金を活用いたしまして、交付要件に基づき当該年に対象年齢となる30歳、40歳、50歳、60歳、70歳、76歳の方に個別申し込みによる受診案内通知を発送し、実施しているところではありますが、受診率は約1割と低い状況で推移をしております。

ご指摘のとおり口腔ケアは健康寿命の延伸には欠かせないものであるとの認識から、令和2年度より事業実施しております。高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業

で、事業者委託により歯科衛生士による口腔ケアを組み入れたフレイル検診を行っておりまして、2カ年で約100名を参加を得ております。また、介護予防事業でも歯科衛生士を講師として歯と口腔の健康づくり講座を実施をいたしまして、オーラルフレイルに取り組んでおります。今後も医療機関での歯科検診の受診率向上を目指し、フレイル検診、介護予防事業の継続した拡充・実施を図り、町民の健康維持に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（石川交三君） 畑澤洋子議員

○8番（畑澤洋子君） ただいまの答弁では、当町でも歯科検診を行っているっていうことですね。実は、ホームページとか検診、町の検診項目とかいろいろ検索してみましたけれども、載ってませんでしたね。私がおの対象年齢になっていないので来ていないと思いますけれども、まあぜひこれを皆さんにPRして、分かりやすく、またホームページ等に載せてもらっても結構ですし、五城目広報でも流していただければ大変にありがたいです。大変に失礼いたしました。

以上で私の質問を終わります。

○議長（石川交三君） 8番畑澤洋子議員の一般質問は終了いたしました。

議場内換気のため、暫時休憩をいたします。再開は午後3時といたします。

午後 2時39分 休憩

.....